まだないくすりを
創るしごと。
世界には、まだ治せない病気があります。
世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。
明日を変える一錠を創る。
アステラスの、しごとです。
明日は変えられる。
astellas
Leading Light for Life
アステラス製薬
www.astellas.com/jp/

サワイジェネリック。胃がん治療の新たな選択肢。
エスエーワン
ひとりでも多くの
がん患者さんのお役に立ちたい。
サワイの思いは、
医療関係者の方々と同じです。
Sawai
Oncology
代謝拮抗剤
薬価基準収載
エスエーワン®配合カプセルT20/T25
新発売
テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合カプセル剤　劇薬・処方せん医薬品 注）
「効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。
注）注意-医師等の処方せんにより使用すること
●学術情報に関するお問い合わせ
医薬品情報センター 0120-381-999
●副作用に関するお問い合わせ
安全管理部 06-6105-5816
●医療関係者向け がん情報サイト
http://med.sawai.co.jp/oncology/
なによりも患者さんのために
沢井製薬
2013年6月作成

SANDOZ
Biopharmaceuticals

a Novartis company

Pioneering the future

遺伝子組換え天然型ヒト成長ホルモン製剤　処方せん医薬品※　薬価基準収載

ソマトロピンBS皮下注5mg・10mg「サンド」

Somatropin BS S.C. Injection 5mg・10mg [SANDOZ]

ソマトロピン（遺伝子組換え）注射液　※注意ー医師等の処方せんにより使用すること

■ 効能・効果、用法・用量、警告、禁忌（原則禁忌を含む）、使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

ソマトロピンBS皮下注5mg・10mg「サンド」専用

オムニトロープ® ペン5／オムニトロープ® ペン10

Omnitrope® Pen　※上部ケースは、オムニトロープ®ペン専用保管ケース

操作方法又は使用方法、禁忌・禁止を含む使用上の注意等については、取扱説明書・添付文書をご参照ください。

オムニトロープ®ペン5 医療機器認証番号 220AFBZX00240000　オムニトロープ®ペン10 医療機器認証番号 220AFBZX00241000　管理医療機器　医薬品ペン型注入器

サンド株式会社　本　社：東京都港区西麻布4-16-13　製造販売元：山形県上山市新金谷827-7　［資料請求先］ サンド株式会社　オムニ・コールセンター　フリーダイヤル:0120-062-256　e-mail:inquiry.japan@sandoz.com　URL:http://www.sandoz.jp

OMN1105A-EJ
2011年5月作成

H2受容体拮抗剤　薬価基準収載

プロテカジン® 錠5・10 OD錠5・10

PROTECADIN® tablet 5・10 OD tablet 5・10
ラフチジン錠
ラフチジン口腔内崩壊錠

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。

■資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

製造販売元
資料請求先
（医薬品情報室）
TAIHO
大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 http://www.taiho.co.jp/

夏目漱石（1867〜1916）
作家。胃潰瘍が持病で、43歳の時、療養先の修善寺で大吐血し、生死の境をさ迷った。その後も再発を繰り返し、1916年、長編小説「明暗」の執筆半ばで、胃潰瘍のために49歳の生涯を閉じた。

2013年1月作成

2013年6月追補収載品〔薬価基準収載〕

新発売

アレルギー性疾患治療剤
日本薬局方 フェキソフェナジン塩酸塩錠
フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「SANIK」 60mg「SANIK」

経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤
ロキソプロフェンナトリウム テープ 50mg「日医工」 100mg「日医工」
パップ 100mg「日医工」
ロキソプロフェンナトリウム水和物貼付剤

抗悪性腫瘍剤　劇薬, 処方せん医薬品※
イリノテカン塩酸塩点滴静注液 40mg「日医工」 100mg「日医工」
イリノテカン塩酸塩水和物注射液

※(注意ー医師等の処方せんにより使用すること)

効能・効果, 用法・用量, 警告, 禁忌(原則禁忌を含む),
使用上の注意等については添付文書をご参照ください

あなたが選ぶジェネリック
日医工株式会社 富山市総曲輪1丁目6番21 http://www.nichiiko.co.jp/
NICHI-IKO お客様サポートセンター (0120)517-215

2013年6月作成

20 YEARS
NORMALIZE VASCULAR

Pfizer Established Products

持続性Ca拮抗薬 劇薬, 処方せん医薬品注) 高血圧症・狭心症治療薬 薬価基準収載
ノルバスク® 錠2.5mg/錠5mg/錠10mg OD錠2.5mg/OD錠5mg/OD錠10mg
日本薬局方 アムロジピンベシル酸塩錠／アムロジピンベシル酸塩口腔内崩壊錠
注) 注意ー医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

製造販売
ファイザー株式会社
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7
資料請求先：製品情報センター

2013年1月作成

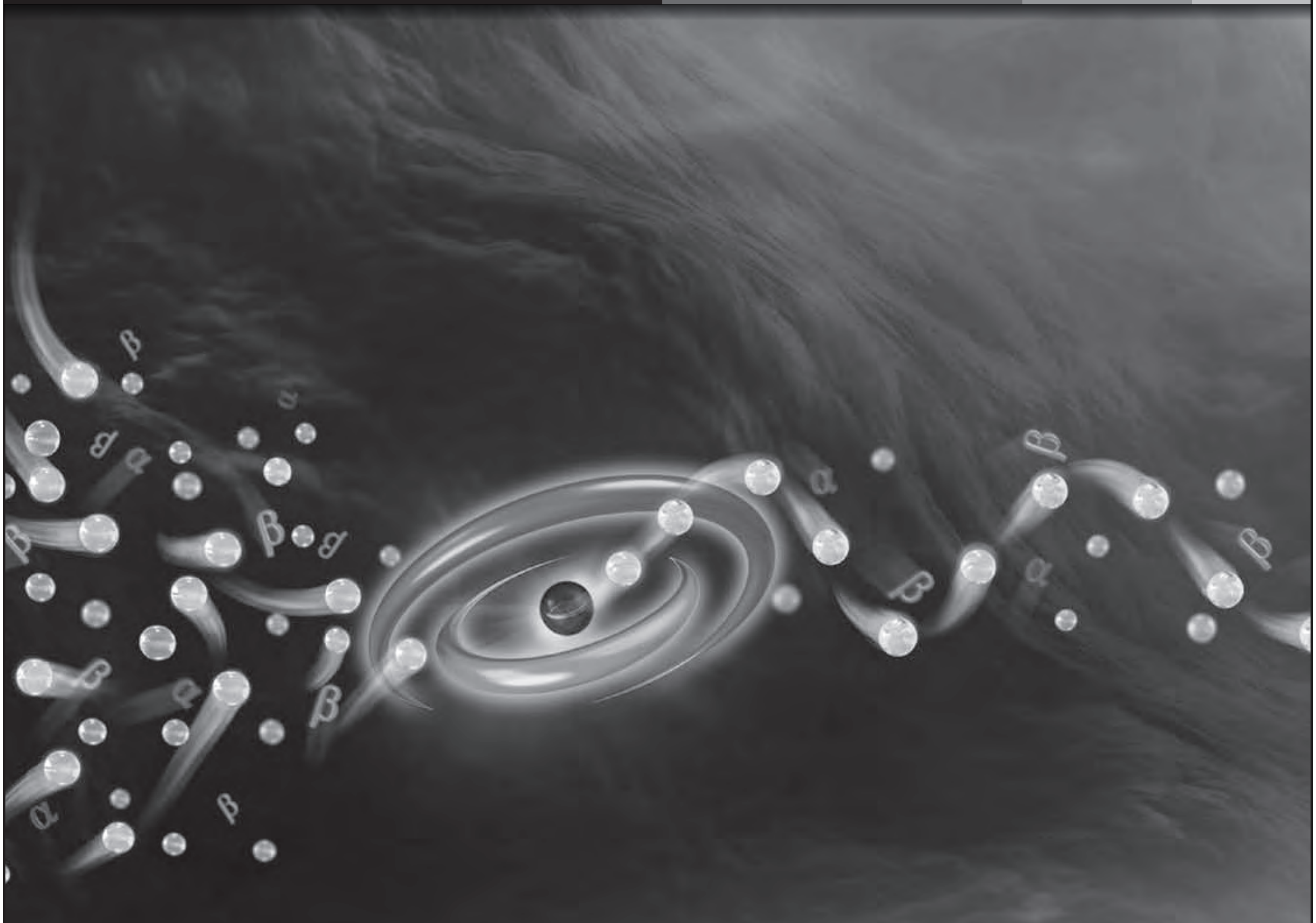
明日をもっとすこやかに

meiji

人々の「健康」と「いのち」を守るため、
患者さん、医療機関、ユーザーの皆様から
信頼を得て、社会に貢献します。
このために私たちは、誠実に、謙虚に、
日々努力してゆきます。

Meiji Seika ファルマ株式会社

作成：2013.5



選択的DPP-4阻害剤／糖尿病用剤

Januvia®

ジャヌビア®錠 25mg 50mg 100mg

薬価基準収載

［シタグリプチンリン酸塩水和物錠］

処方せん医薬品：注意ー医師等の処方せんにより使用すること

MSD

製造販売元［資料請求先］

MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア

http://www.msd.co.jp/

【効能·効果】、【用法·用量】、【用法·用量に関連する使用上の注意】、【禁忌を含む使用上の注意】等については、製品添付文書をご参照ください。

2011年6月作成

JAN11AD008-0616

不整脈治療剤

毒薬　処方せん医薬品：注意－医師等の処方せんにより使用すること

日本薬局方 アミオダロン塩酸塩錠　●薬価基準収載

Ancaron® アンカロン®錠100

不整脈治療剤

毒薬　処方せん医薬品：注意－医師等の処方せんにより使用すること

Ancaron® アンカロン®注150

アミオダロン塩酸塩製剤　●薬価基準収載

★ アンカロン®錠100の「効能又は効果」「用法及び用量」「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については現品添付文書をご参照ください。

★ アンカロン®注150の「効能又は効果」「用法及び用量」「警告・禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等については現品添付文書をご参照ください。

★ 資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

詳しくは製品情報サイトをご覧ください。 e-MR

e-MR 検索

2012年10月作成　JP.AMD.12.10.06

製造販売：サノフィ株式会社

〒163-1488

東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

SANOFI

大日本住友製薬

新発売

長時間作用型ARB／持続性Ca拮抗薬配合剤――薬価基準収載

アイミクス®配合錠LD HD

イルベサルタン／アムロジピンベシル酸塩配合錠 AIMIX®

劇薬・処方せん医薬品（注意―医師等の処方せんにより使用すること）

長時間作用型ARB――薬価基準収載

アバプロ®錠 50mg 100mg

イルベサルタン錠 AVAPRO®

処方せん医薬品（注意―医師等の処方せんにより使用すること）

高血圧症・狭心症治療薬／持続性Ca拮抗薬――薬価基準収載

アムロジン®錠/OD錠 2.5mg 5mg 10mg

日本薬局方 アムロジピンベシル酸塩錠、アムロジピンベシル酸塩口腔内崩壊錠 Amlodin®

劇薬・処方せん医薬品（注意―医師等の処方せんにより使用すること）

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元〔資料請求先〕
大日本住友製薬株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉
くすり情報センター
TEL 0120-034-389
受付時間／月～金 9:00～18:30（祝・祭日を除く）
【医療情報サイト】https://ds-pharma.jp/

2013.2作成

脂質異常に 2つの力
～EPA・DHA～

新発売
薬価基準収載

EPA・DHA製剤

ロトリガ® 粒状カプセル2g

（オメガ-3脂肪酸エチル粒状カプセル）

【禁忌】（次の患者には投与しないこと）
（1）出血している患者（血友病、毛細血管脆弱症、消化管潰瘍、尿路出血、喀血、硝子体出血等）［止血が困難となるおそれがある。］
（2）本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

効能・効果

高脂血症

用法・用量

通常、成人にはオメガ-3脂肪酸エチルとして1回2gを1日1回、食直後に経口投与する。
ただし、トリグリセライド高値の程度により1回2g、1日2回まで増量できる。

使用上の注意

1.慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
（1）出血の危険性の高い患者（重度の外傷、手術等）［出血を助長するおそれがある。］
（2）抗凝固薬あるいは抗血小板薬を投与中の患者（「相互作用」の項参照）
2.重要な基本的注意
本剤の適用にあたっては、次の点に十分注意すること。
（1）適用の前に十分な検査を実施し、高脂血症であることを確認すること。
（2）あらかじめ生活習慣の改善指導を行い、更に高血圧、喫煙、糖尿病等の冠動脈疾患の危険因子の軽減等も十分に考慮すること。
（3）本剤投与中は血中脂質値を定期的に検査し、治療に対する効果が認められない場合には投与を中止すること。
（4）本剤投与中にLDLコレステロール値上昇の可能性があるため、投与中はLDLコレステロール値を定期的に検査すること。
3.相互作用
併用注意（併用に注意すること）
抗凝固薬：ワルファリンカリウム等
抗血小板薬：アスピリン等
4.副作用
承認までの国内臨床試験ではオメガ-3脂肪酸エチルとして2g又は4gが投与された948例中91例（9.6%）に臨床検査値の異常を含む副作用が認められた。主な副作用は下痢（2.5%）であった。

本剤は新医薬品であるため、厚生労働省告示第107号（平成18年3月6日付）に基づき、2013年11月末日までは、1回14日分を限度とした投薬しか認められない。

●注意：使用上の注意などの詳細については、添付文書をご参照ください

2013年1月作成

〔資料請求先〕
武田薬品工業株式会社 医薬営業本部
〒103-8668 東京都中央区日本橋二丁目12番10号

アレルギー性疾患治療剤

薬価基準未収載

フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「トーワ」 60mg「トーワ」

日本薬局方 フェキソフェナジン塩酸塩錠

先発・代表薬剤：アレグラ錠

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）

東和薬品株式会社

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号

医薬品情報に関するお問い合わせはこちら

学術部DIセンター

0120-108-932 24時間受付対応

http://www.towayakuhin.co.jp

2013年5月作成

平成二十五年七月一日印刷・平成二十五年七月一日発行　アプライド・セラピューティクス学会　第五巻　Supplement

■警告

本剤の投与により出血が発現し, 重篤な出血の場合には, 死亡に至るおそれがある. 本剤の使用にあたっては, 出血の危険性を考慮し, 本剤投与の適否を慎重に判断すること. 本剤による出血リスクを正確に評価できる指標は確立されておらず, 本剤の抗凝固作用を中和する薬剤はないため, 本剤投与中は, 血液凝固に関する検査値のみならず, 出血や貧血等の徴候を十分に観察すること. これらの徴候が認められた場合には, 直ちに適切な処置を行うこと. [「禁忌」, 「用法・用量に関連する使用上の注意」, 「慎重投与」, 「重要な基本的注意」, 「過量投与」の項参照]

■禁忌(次の患者には投与しないこと)

(1)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
(2)出血している患者(頭蓋内出血, 消化管出血等の臨床的に重大な出血) [出血を助長するおそれがある.]
(3)凝固障害を伴う肝疾患の患者 [出血の危険性が増大するおそれがある.]
(4)中等度以上の肝障害(Child-Pugh分類B又はCに相当)のある患者 [出血の危険性が増大するおそれがある.]
(5)腎不全(クレアチニンクリアランス15mL/min未満)の患者 [使用経験がない.]
(6)妊婦又は妊娠している可能性のある女性 [「妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照]
(7)HIVプロテアーゼ阻害剤(リトナビル, アタザナビル, インジナビル等)を投与中の患者 [「相互作用」, 「薬物動態」の項参照]
(8)アゾール系抗真菌剤(フルコナゾールを除く. イトラコナゾール, ボリコナゾール, ケトコナゾール等)の経口又は注射剤を投与中の患者 [「相互作用」, 「薬物動態」の項参照]
(9)急性細菌性心内膜炎の患者 [血栓剥離に伴う血栓塞栓様症状を呈するおそれがある.]

■効能・効果

非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制

■用法・用量

通常, 成人にはリバーロキサバンとして15mgを1日1回食後に経口投与する. なお, 腎障害のある患者に対しては, 腎機能の程度に応じて10mg1日1回に減量する.

<用法・用量に関連する使用上の注意>
(1)クレアチニンクリアランス30～49mL/minの患者には, 10mgを1日1回投与する. [「慎重投与」及び「臨床成績」の項参照] (2)クレアチニンクリアランス15～29mL/minの患者では, 本剤の血中濃度が上昇することが示唆されており, これらの患者における有効性及び安全性は確立していないので, 本剤投与の適否を慎重に検討した上で, 投与する場合は, 10mgを1日1回投与する. [「慎重投与」及び「薬物動態」の項参照]

■使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1)出血リスクが高い患者(止血障害, 凝固障害, 先天性又は後天性の出血性疾患, コントロールできない重症の高血圧症, 活動性の潰瘍性消化管障害, 血管性網膜症, もしくは頭蓋内出血発症後日の浅い患者, 脊髄内又は脳内に血管異常のある患者,脊髄や眼の手術後日の浅い患者, 気管支拡張症又は肺出血の既往のある患者) [出血の危険性が増大する.] (2)腎障害のある患者(クレアチニンクリアランス15～49mL/min) [「用法・用量に関連する使用上の注意」の項参照] (3)高齢者 [「高齢者への投与」の項参照] (4)低体重の患者 [低体重の患者では出血の危険性が増大することがある.]

2. 重要な基本的注意

(1)プロトロンビン時間国際標準比(PT-INR)は本剤の抗凝固作用について標準化された指標でなく, 活性化部分トロンボプラスチン時間(aPTT)等の凝固能検査は, 本剤の抗凝固作用をモニタリングする指標として推奨されない. 投与にあたっては, 臨床症状を注意深く観察し, 出血等が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと. (2)本剤と他の抗凝固剤との切り替えにおいては, 以下の点に留意すること. 1)ワルファリンから本剤に切り替える必要がある場合は, ワルファリンの投与を中止した後, PT-INR等, 血液凝固能検査を実施し, 治療域の下限以下になったことを確認した後, 可及的速やかに本剤の投与を開始すること. 2)注射剤の抗凝固剤(ヘパリン等)から本剤に切り替える場合, 次回の静脈内又は皮下投与が予定された時間の0～2時間前又は持続静注中止後より, 本剤の投与を開始すること. 3)本剤からワルファリンへの切り替え時において抗凝固作用が不十分になる可能性が示唆されているので, 抗凝固作用が維持されるよう注意し, PT-INR等, 血液凝固能検査の値が治療域の下限を超えるまでは, ワルファリンと本剤を併用すること. なお, 本剤の投与終了後24時間経過するまでは, PT-INRはワルファリンの抗凝固作用を正確に反映しない. 4)本剤から注射剤の抗凝固剤に切り替える場合, 本剤の投与を中止し, 次回の本剤投与が予定された時間に抗凝固剤の静脈内投与又は皮下投与を開始すること. (3)本剤の投与中に手術や侵襲的処置を行う場合, 臨床的に可能であれば本剤の投与後24時間以上経過した後に行うことが望ましい. 手術や侵襲的処置の開始を遅らせることができない場合は, 緊急性と出血リスクを評価すること. 本剤の投与は, 手術や侵襲的処置後, 患者の臨床状態に問題がなく出血がないことを確認してから, 可及的速やかに再開すること. (4)出血等の副作用が生じることがあるので, 必要に応じて血算(ヘモグロビン値), 便潜血等の検査を実施し, 急激なヘモグロビン値や血圧の低下等の出血の徴候が認められた場合には, 適切な処置を行うこと. (5)患者には, 鼻出血, 皮下出血, 歯肉出血, 血尿, 喀血, 吐血及び血便等, 異常な出血の徴候が認められた場合には, 医師に連絡するよう指導すること. (6)アスピリン, クロピドグレル硫酸塩等の抗血小板剤との併用により, 出血の危険性が増大するおそれがあるので, 注意すること. これらの薬剤と本剤の併用については, 治療上の有益性と危険性を考慮して慎重に判断すること. [「相互作用」の項参照] (7)潰瘍性消化管障害のおそれのある患者には, 潰瘍性消化管障害に対する適切な予防に配慮すること. (8)服用を忘れた場合は直ちに本剤を服用し, 翌日から毎日1回の服用を行うよう患者に指導すること. 服用を忘れた場合でも, 一度に2回分を服用せず, 次の服用まで12時間以上空けるよう, 患者に指導すること.

3. 相互作用

本剤は主としてチトクロームP450 3A4及び2J2(CYP3A4及びCYP2J2)により代謝される. また, 本剤はP-糖蛋白及び乳癌耐性蛋白(BCRP)の基質である. [「薬物動態」の項参照] (1)併用禁忌(併用しないこと) : HIVプロテアーゼ阻害剤,アゾール系抗真菌剤(経口又は注射剤, フルコナゾールを除く) (2)併用注意(併用に注意すること) : 抗凝固剤, 血小板凝集抑制作用を有する薬剤, サリチル酸誘導体, 血栓溶解剤, 非ステロイド性解熱鎮痛消炎剤, フルコナゾール, クラリスロマイシン, エリスロマイシン, リファンピシン, フェニトイン, カルバマゼピン, フェノバルビタール, セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort, セント・ジョーンズ・ワート)含有食品

4. 副作用

国内データ : 非弁膜症性心房細動患者を対象とした国内第Ⅲ相試験において, 本剤15mg(クレアチニンクリアランス30～49mL/minの患者には10mg)が1日1回投与された639例中326例(51.0%)に副作用(臨床検査値異常を含む)が認められた. 主な副作用は, 鼻出血88例(13.8%), 皮下出血50例(7.8%), 歯肉出血40例(6.3%), 血尿24例(3.8%), 結膜出血23例(3.6%), 尿中血陽性18例(2.8%), 貧血17例(2.7%), 創傷出血15例(2.3%), 喀血14例(2.2%), 口腔内出血12例(1.9%), 痔出血11例(1.7%), 便潜血陽性9例(1.4%), 網膜出血7例(1.1%), メレナ7例(1.1%), 便潜血7例(1.1%), 出血7例(1.1%)等であった. (承認時)

外国データ : 非弁膜症性心房細動患者を対象とした国外第Ⅲ相試験において, 本剤20mg(クレアチニンクリアランス30～49mL/minの患者には15mg)が1日1回投与された7,111例中2,096例(29.5%)に副作用(臨床検査値異常を含む)が認められた. 主な副作用は, 鼻出血537例(7.6%), 歯肉出血196例(2.8%), 血尿195例(2.7%), 血腫124例(1.7%), 斑状出血117例(1.6%), 挫傷94例(1.3%), 貧血92例(1.3%), 直腸出血89例(1.3%), 胃腸出血81例(1.1%), 結膜出血77例(1.1%)等であった. (承認時)

(1)重大な副作用 1)出血 : 頭蓋内出血(0.13%), 脳出血(0.10%), 出血性卒中(0.10%), 関節内出血(0.21%), 眼出血(0.27%), 網膜出血(0.12%), 直腸出血(1.15%), 胃腸出血(1.05%), 上部消化管出血(0.55%), メレナ(0.68%), 下部消化管出血(0.23%), 出血性胃潰瘍(0.19%), コンパートメント症候群を伴う筋肉内出血(0.01%)等の重篤な出血があらわれることがあり, 死亡に至る例が報告されている. 本剤投与中は観察を十分に行い, 重篤な出血等の異常が認められた場合は投与を中止し, 適切な処置を行うこと. なお, 出血に伴う合併症として, ショック, 腎不全, 呼吸困難, 浮腫, 頭痛, 浮動性めまい, 蒼白, 脱力感があらわれることがある. また, 一部の例では貧血の結果として胸痛又は狭心症様の心虚血症状があらわれている. 2)肝機能障害・黄疸 : ALT(GPT)上昇, AST(GOT)上昇を伴う肝機能障害(0.1～1%未満), 黄疸(頻度不明)があらわれることがあるので, 観察を十分に行い, 異常が認められた場合は投与を中止し, 適切な処置を行うこと.

● その他の使用上の注意等の詳細は, 製品添付文書をご参照ください.

選択的直接作用型第Xa因子阻害剤

イグザレルト®錠

10mg 15mg

Xarelto® (リバーロキサバン錠) 薬価基準収載

処方せん医薬品 (注意ー医師等の処方せんにより使用すること)

資料請求先

バイエル薬品株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001

http://www.bayer.co.jp/byl

2013年2月作成